

新編  
出家秉炬・年回香語集

青山社編集部 編

■一東韻（八首）〔上平声〕

一 秉 炬（春）

□十年來道舊翁。

山雲海月想無窮。

無端唱起還鄉曲。

滿地帶悲處處風。

恭惟「大和尚

道念玉潔。法臘嶽崇。

享生於□□町邊。斷髮於□□寺。

參禪於□□淨域。探心性於禪叢。

□□寺畔。緇素接化□十季。

□□山下。不退願輪一心充。

獻身教界繁榮。稱洞門傑。

復舊伽藍頽廢。顯重興功。

加之。布教又福祉當任不辭。

□十年來 道旧の翁

山雲海月 想い窮まり無し

端無くも唱え起す還郷の曲

滿地 悲しみを帯ぶ 処々の風

恭しく惟れば新般涅槃 「大和尚

道念玉のごとく潔く、法臘岳のごとく崇し

生を□□町の辺に享け、髪を□□寺に断ず

□□の淨域に参禅して、心性を禪叢に探れり

□□寺畔、緇素の接化 □十季

□□山下、不退の願輪 一心に充つ

教界の繁榮に献身して、洞門の傑と称さるる

伽藍の頽廢を復旧して、重興の功を顕す

加之 布教また福祉、任に当たつて辞せず

檀務又宗務恆盡精忠。

向上一路住三昧。接物利生得圓通。

雖然 有疾臥病牀。託守塔於後嗣。

無苦雙眼閉。趣使依身臨終。

上來是大和尚生前沒後之自受用三昧也

山僧今日以道舊因緣遙臨茶毘盛禮

點炬火念香一炷

於這裏生死岸頭轉身之一路 如何表愚衷。

（一字闕）

梅花有影存春色。暖氣尙淺殘雪中。

檀務また宗務に、恒に精忠を尽さるる

向上一路三昧に住し、接物利生円通を得たり

然りと雖も、疾ありて病床に臥し、守塔を後嗣に託し

苦無く双眼閉じて、依身をして臨終に趣かしむ

上來は是れ大和尚、生前没後の自受用三昧なり

山僧今日、道旧の因縁を以て遙かに茶毘の盛礼に臨み

炬火を点じて香一炷を念ず

這裏に於いて生死岸頭轉身の一路、如何が愚衷を表さん

（一字闕）

梅花影あり春色を存す、暖氣尙お浅し残雪の中

●道旧…禅僧の旧友。●山雲海月…俗世界を超絶した境界。●緇素…出家と在家。●依身…心の依止する所。肉体。

【季節の言い換え】（脚句）

〈夏〉數片飛雲新樹外 一聲杜宇碧天中（數片の飛雲 新樹の外 一声の杜宇 碧天の中）

〈秋〉秋入清風吹白露 天懸明月送飛鴻（秋は清風に入って白露を吹き、天は明月を懸けて飛鴻を送る）

花前拂袖別春風。  
烟鎖閻浮古梵宮。  
末後牢關留不駐。  
泥牛沒影太虛空。

恭惟〔大和尚

後學甘露・本宗巨叢

夙投身東漸佛法・庵公剃度。  
遂挺志西來祖意・應老化功。

負笈尋師・修學于檀林竿頭進步。  
設拜訪道・練心于休室棒下轉躬。

掬清泉水全機展開・不拘順逆。  
弄清涼月大用瞥轉・豈覓解通。

久統理宗衙・張兔角弓才略鳴塞外。  
常擁護祖嶽・架龜毛箭智謀滿胸中。

花前に袖を払って春風に別る  
閻浮を煙鎖す古梵宮  
末後の牢関 留むるも駐まらず  
泥牛 影を没す太虚空

恭しく惟れば〔大和尚

後学の甘露、本宗の巨叢

夙に身を東漸の仏法に投じ、庵公に剃度す  
遂に志を西來の祖意に挺し、応老に功を化す

笈を負い師を尋ね、学を檀林に修め、竿頭に歩を進む  
拜を設け道を訪ねて、心を休室に練り、棒下に躬を転ず

清泉の水を掬して全機展開、順逆に拘われず  
清涼の月を弄して大用瞥転、豈に解通を覓めん

久しく宗衙を統理し、兎角の弓を張り才略塞外に鳴る  
常に祖岳を擁護し、龜毛の箭を架け智謀胸中に満つ

揚化七十有一年・胡孫入布袋。  
行業二萬五千日・石馬出紗籠。

上來老和尚一生受用不盡底遊戯三昧也  
即今向火光定裡 如何消息通

丙丁童子來求火。  
三十三天烈焰紅。

化を揚ぐる七十有一年、胡孫布袋に入る  
行業二万五千日、石馬紗籠を出ず

上來は老和尚 一生受用不尽底の遊戯三昧なり  
即今、火光定裡に向かつて、如何が消息を通ぜん

丙丁童子 来つて火を求む  
三十三天 烈焰紅なり

●北野元峰禪師「默地說三大和尚」俗姓は弘津。山口県の人。永平寺西堂。  
●梵宮：寺院。梵刹。●泥牛：泥で作られた牛。煩惱の喩え。●後學甘露：後輩たちの良き師。●先宗巨叢：先人が伝えた学道の巨叢（大きな道場）。●庵公：本師の拙庵黙矣か。●洞泉：說三師が住持した寺名。●清涼月：同じく住持した清涼山心月院。●瞥転：瞬時のはたらきをいう。●塞外：とりでの外。国境の外。●胡孫：猿の異名。心猿。●行業：僧侶の一生の行い。●紗籠：薄絹で張った灯籠。●火光定：身より燃えさかる火を出す禅定。●丙丁童子：丙・丁ともに火の神。火が火を求めること。●三十三天：忉利天。須弥山の頂に位置する天界。

残暑猶留八月空。  
訃音滿耳淚無窮。  
洞門碩德一禪老。  
驀直轉身起清風。

恭惟 新般涅槃 「 大和尚

素朴守道 直心重忠。

□十年生涯 談玄說妙。

二六時中活計 養拙直躬。

久涉真俗二途 勤儉修己。

復興諸堂荒廢 功勞實崇。

住職□十餘年 □山高而閑不徹。

守塔□十□世 世相變早而太忙匆。

於是

向上一路住三昧 接物利生得圓通。

残暑猶留まる八月の空

訃音 耳に満ちて涙窮まり無し

洞門の碩徳 一禪老

驀直に身を転じて清風起る

恭しく惟れば、新般涅槃 「 大和尚

素朴道を守り、直心 忠を重んず

□十年の生涯 玄を談じ妙を説く

二六時中の活計、拙を養って躬を直くす

久しく真俗の二途に涉り、勤儉己を修む

諸堂の荒廢を復興し、功勞實に崇し

住職□十餘年、□山高うして閑不徹

守塔□十□世、世相變ること早うして太忙匆

是に於いて

向上一路三昧に住し、接物利生 円通を得たり

豈計

毘嵐一朝誘定命 吹倒依身急命終。

雖然 生死無來去 身心非色空。

生死即涅槃 不生不滅。

涅槃即生死 絕異絕同。

正當恁麼時 生死即涅槃消息

如何期圓融 (二字關)

轉身自在通霄路。

步步踏翻兜率宮。

豈に計らん

毘嵐一朝 定命を誘い、依身を吹倒して命終を急ぐとは

然りと雖も、生死に來去無し 身心 色空に非ず

生死即涅槃、不生不滅

涅槃即生死、異を絶し同を絶す

正當恁麼の時、生死即涅槃の消息

如何が円融を期せん (一字関)

轉身自在 通霄の路

步步踏翻す兜率宮

●驀直…まっしぐらに。●涉真俗二途…住職の傍ら他の職業に従事した人の意に用いる。●閑不徹…徹底した静寂の境地。  
●太忙匆…大変いそがしい。太忙生。●毘嵐…劫初・劫末に吹いて世界を破壊し尽くす大暴風。●定命…過去世から定められた寿命。●通宵…ひと晩中。●踏翻…ひっくりかえす。けかえす。●兜率宮…兜率天。弥勒菩薩の住する欲界の浄土。

【季節の言い換え】(蒙頭偈の起句)

〈春〉春色依依四月空 (春色依依たり三月の空)

〈夏〉三伏炎炎七月空 (三伏炎炎たり七月の空)

〈秋〉秋水閑雲九月空 (秋水閑雲九月の空)

〈冬〉吹雪寒風師走空 (雪を吹く寒風師走の空)